

継続検討品目群（目的物）

提案品目名、品目概要は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

平成21年度版

統合品目名	提案品目名	提案品目の概要	比較対象品目名	検討結果	
				分類	理由等
保水性舗装	クールペーブ	アスファルト舗装は熱を蓄熱しやすく、夏季の日中には気温30～40℃において60℃にも達することがある。このため、アスファルト舗装が占める面積が大きい都市部では、都市全体の気温を高くするいわゆるヒートアイランド現象の一因になっているとの指摘もある。提案の舗装は、舗装内部の空隙に水分を保持できる吸水性ポリマーと、吸水性の高い保水材が注入されており、保持した水分が蒸発することによって、舗装の蓄熱量を抑えることができ、周辺熱収支量の低減（体感気温差で約2℃）に寄与できるものと言える。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	透水性・保水性兼備型ヒートアイランド抑制舗装	排水性アスファルト舗装の空隙の一部に、高炉スラグを原料とした保水材を注入する舗装工法。排水性アスファルト舗装空隙を全て保水材で充填しないため、透水性を維持しつつ、保水性を付与できる。舗装空隙が残存するため、吸音性も保持できる。保水層に吸収された水の気化熱で路面を冷却し、都市部のヒートアイランド現象を抑制することができる。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	クールポリシール	クールポリシールは、高空隙のベースアスファルト混合物に、保水効果の高い特殊セメントミルク（クールグラウト）を充填した保水性舗装です。水が蒸発する際の気化熱により、効果的に路面温度の上昇を抑制します。特に都市部におけるヒートアイランド現象の緩和に最適です。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	フジ200（吸水型保水性焼成物）	フジ200はペーパーラスラッジ等を原料とするリサイクル商品（重量比約60%）であり、廃棄物の有効活用に貢献する。さらに、高い保水機能（0.15～0.30g/cm3）を持ち、保水した水が気化する過程で表面温度を低減させ、ヒートアイランド現象抑制にも貢献する（国土交通省関東技術事務所実施「環境舗装東京プロジェクト」にて「特に優れた技術」として評価される）。そして、使用後も破砕工程により保水骨材として使用することができる技術も開発した。製造段階・使用段階・廃棄段階も、環境負荷低減を行える品目である。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	ミズホ[ai]	高保水性コンクリート舗装材 ミズホ[ai]は、降雨によって浸透した水分を独自の多孔質構造内に蓄え、気温の上昇に伴い表面から水分を蒸散させて、気化熱冷却効果で温度上昇を抑制する。また、雨や散水がなくても、毛細管力で路盤から水分を吸い上げ、蒸散した分を補うため、持続的に温度を低減する。真夏の炎天下が続く日でも、地中の水分を吸い上げる毛細管現象によって、約4～6日間持続して温度を低減させる効果がある。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	保水性コンクリート平板（蒸発冷却舗装用コンクリート平板）	(1)保水タイプ 多孔質構造のコンクリート平板で保水機能及び蒸発冷却機能を有した舗装平板。 (2)保水・透水タイプ ポーラス構造と多孔質構造が均一分布したコンクリート平板で透水機能及び保水機能及び蒸発冷却機能等の複数機能を有した舗装平板。	排水性舗装	継続検討 QC	<ul style="list-style-type: none"> ○本品目については、統合品目「保水性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 <ul style="list-style-type: none"> ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・路面温度抑制性能について、長期耐久性の確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行的な取り組みという位置づけであり、実績等に基づく技術基準などが未整備 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。

継続検討品目群（目的物）

提案品目名、品目概要は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

平成21年度版

統合品目名	提案品目名	提案品目の概要	比較対象品目名	検討結果	
				分類	理由等
遮熱性舗装	クールパーピラス	排水性舗装にパーフェクトクール(遮熱コート)をコーティングした遮熱排水性舗装で、排水性舗装の機能(騒音低減、排水機能など)に加え、路面温度上昇抑制機能を付与した。特にヒートアイランド現象が顕著な都市部において効果的な多機能型排水性舗装。パーフェクトクールの代表的な色には、濃灰色タイプや灰色タイプ等がある。保水性舗装に比べ、路面温度上昇抑制機能発揮のための、水分補給などの管理が不要。	排水性舗装	継続検討 QC	E ○本品目については、統合品目「遮熱性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コーティング材が混入されるため、アスファルト混合物としてリサイクルが可能か確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	遮熱性舗装	従来の舗装路面に塗装施工することにより、夏場日中の温度上昇及び路面蓄熱を抑制し、夜間の放熱抑制等によるヒートアイランド対策として有効な手段となる。低臭気であるため、施工時の周辺環境への配慮も可能である。保水性舗装のように水の供給等が必要がなく、従来舗装の上に塗装するだけの簡易な手法で温度低減効果を発現する。車道、駐車場、歩道、プールサイド、公園外周、その他民間企業敷地内等、06年度は約30,000㎡の施工実績がある。	排水性舗装	継続検討 QC	E ○平成20年度は資料の提出をいただいておりますが、再精査した結果、昨年度と同じ判断とさせていただきます。 ○本品目については、統合品目「遮熱性舗装」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コーティング材が混入されるため、アスファルト混合物としてリサイクルが可能か確認が必要 ②JIS・JAS等の公的基準に適合していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。 ○なお、今後も新たな資料の提出をいただけない場合は、継続的な検討が困難となる場合がありますので予めご了承下さい。